

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

- 凡事徹底
- 各教科領域等で考える時間を設定し、思考力を育成
- 家庭学習の充実

＜本年度の学力向上策＞

- 1 学力向上の基盤となる授業規律の確立
  - (1) チャイム始業・終業を徹底する。
  - (2) 日進北小・宮前中の小中連携協議会で、生徒指導のきまりを共通理解する。
- 2 子どもたちが主体となる授業づくり
  - (1) 各教科における「基礎的・基本的な知識・技能」を明確にする。
  - (2) 研修推進委員会をもとに研究発表会に向けて、研究授業を実施する。
  - (3) 学習課題の明示と、学習の振り返りにおけるノートづくりにより書く活動を充実させる。
- 3 全国学力・学習状況調査・学期毎の主要教科の結果の分析と活用
  - (1) さいたま市学習状況調査からみられる各教科の成果と課題を把握する。
  - (2) 学力向上カウンセリング学校訪問を活用した調査結果の分析と学力向上策の見直しを各教科主任を中心に図る。
  - (3) 児童理解研修で学習・生活状況等を共通理解・共通行動を図る。
- 4 家庭・地域と連携した学習環境の整備
  - (1) 家庭学習は、各学年で系統的に同一歩調で行う。
  - (2) 地域の人材を活用したチャレンジスクールの充実を図る。

＜本年度の振り返り＞

- 1 1学期から継続して落ち着いた学習環境で授業が行われているので継続したい。
- 2 悉皆研修に向けて職員が目標が一つに絞られ、組織的に研究授業・研究協議が計画的に深まった。次年度も積み重ねを継続して子どもを高めていきたい。
- 3 ○質問紙調査の「学校の規則を守っている」の規範意識を生徒指導委員会で話し合い、その都度、教職員に共通理解・共通行動を促せた。また、小中一貫教育合同研修会を通して9年間の見直しをもって、一貫性をもたせるに至った。
  - ▲各教科の課題克服のため、日々の家庭学習や長期休業中の課題等学年会で話し合い、同一歩調で継続的に取り組むことが大切である。
  - ・次年度も、教科ごとの分析をより詳細に進め、継続的な授業改善に取り組む。
- 4 チャレンジスクールへの参加者が意欲的に参加できた。